

## 異文化間教育学会 2018 年度第 1 回若手研究交流会 開催報告

若手交流委員会（新見・徳永・平井・横田）

若手交流委員会では、「若手国際教育家のキャリア、研究、教育実践の進め方などに関するメンタリングセッション」と題して、異文化間教育学会で中心的な役割を果たされて来た、佐藤郡衛会員・学会長（明治大学）、横田雅弘会員・元学会長（明治大学）、岸磨貴子会員・学会事務局長（明治大学）という3名のメンターに対して、キャリア、研究、教育実践の進め方などに関して、若手国際教育家が小グループで質疑応答ができるというメンタリングセッションを実施した。メンタリングセッションでは、まず若手交流委員の平井会員を司会として、3名のメンターの方々にシンポジウム形式でお話を伺った。その際に、研究と実践について、またキャリア・採用などについての話題をテーマとした。メンターの方々が国際教育家として仕事をする上で、大切にしている価値観や思い、やりがいなどに関しての話題が上がった際に、メンターから共通して、情熱を持つことの重要性が語れたことが印象的だった。その後、グループを3つに分け、それぞれのグループにメンターとファシリテーター（若手交流委員）を一人ずつ配置し、質疑応答を行った。その後、参加者が別のメンターのグループに移り、質疑応答を継続した。これらの2回のメンタリングセッションでは、活発に質疑応答が行われていたため、予定していた時間を超えてそれぞれのセッションを継続した。そのため、当初の予定では参加者同士の相互サポートセッションも行う予定だったが、時間の都合上割愛した。

イベント終了後、中野駅近くのシリア料理店カルタゴにて懇親会が行われた。イベントでメンターを務めた岸会員の行きつけのお店ということで、岸会員にメニューをお任せし、普段なかなか口にすることのないシリア料理を楽しみながら、ベテラン・若手の参加者たちが和やかな雰囲気の中交流を行った。イベント参加者のほとんどが懇親会に出席した。

今回のメンタリングセッションは、若手の国際教育家が、普段なかなか時間をとってお話を伺うことが難しいと思われる本学会を代表するメンターを囲んで、直接じっくりと話を聴ける大変貴重な会となった。さらに、参加者自体の人数がそこまで多くなかったため、参加者同士の交流も密に行うことができた。総じて参加者の満足度は高く、懇親会終了後までに、2名が新しく学会に入会することを決めるなど、本学会の居心地の良さが伝わる良いイベントとなったと思われる。今回のような小規模で密度の濃いイベントを行うことは、まだ知り合いも多くない若手の国際教育家にとって、縦と横のつながりを作る上で有益なものであったのではないだろうか。今後もこのような企画を準備していきたい。